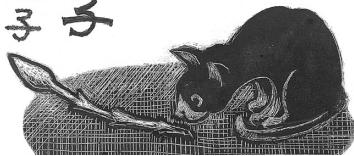




# つくしんぼ

別司 芳子  
え入村定子



トヨばあちゃんのさいふは、使っても使っても、お金がもどってくる、魔法のさいふです。

「わたし、トヨばあちゃんのために、魔法使いになる！」  
菜々子がそう宣言したのは、三カ月前のことでした。

その日は、朝から雪がぼたぼたと降る寒い日で、お母さんが仕事から帰ってきたときには、駐車場に雪が五十センチ以上も積もっていました。自動車が入らないので、お母さんは玄関にかばんを置いたまま除雪を始めました。菜々子も手伝って、二人でお父さんの自動車の分もあけました。家の中に入ってくると、灯油の切れたストーブの前で、トヨばあちゃんと猫のハナが、震えながら小さくなって座っていました。

「すっかり遅くなってごめんなさいね。お腹がすいたのでしょ。すぐにしたくをしますからね」

お母さんが言うと、

「今日は寒いですねえ。鍋焼きうどん、ひとつ」

トヨばあちゃんが、ぼつりと言いました。

鍋焼きうどんは、トヨばあちゃんの得意料理でした。いつもなら除雪が終わって家の中に入ってくると、トントんとリズムよくネギを刻む音がして、おいしそうな天ぷらの匂いが、家中にたちこめていました。海老の天ぷらが大好物の菜々子には、いつも一番大きな海老が入っていました。

「おばあちゃん、風邪でも、ひいたのかしらね」

お母さんは休む間もなく、超特急で鍋焼きうどんをつくりました。海老の天ぷらを作っている時間はありません。